

平成 28 年度

第 61 回 長野県中学校連合教科研究会

# 道徳

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	趣 旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2～4
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	4

# I 研究テーマ

「魅力ある道德の時間の創造」

## II 趣旨

- (1) 生徒の姿や心情をもとに道德の授業を構築していく方向を大切にしたい。特に、生徒のもつ良さを捉えたり、生徒の姿に寄り添ったりした上で、資料づくりや展開を図っていく方向にしたい。そのことによって学習している生徒が「楽しかった」「学んで良かった」と思える授業をめざしていきたい。
- (2) 生徒の実態把握とねらいを明確にして、生徒が道德的な価値を主体的に追求できる単元展開や一時間の授業の展開を工夫し、生徒にとって魅力ある道德の授業を紹介し合いたい。
- (3) 評価の実際について意見交換し、望ましい評価方法について明らかにしていきたい。
- (4) 多様な学習活動にかかわって、日々の授業に役立つようなエピソード的な内容も盛り込むことも可能とする。また、「道德の時間」の実践を中心とするものの、道德教育全般を研究の対象とする。

## III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

- 第1分科会 指導者 宮下 健治先生 (南信教育事務所指導主事)  
 司会者 高野 昌生先生 (飯田市立緑ヶ丘中学校)  
 記録者 小日向里美先生 (松本市立女鳥羽中学校)  
 世話係 米山 聡先生 (信州大学教育学部附属長野中学校)
- 第2分科会 指導者 丸山 美恵先生 (長野県総合教育センター専門主事 )  
 司会者 田中 健雄先生 (諏訪市立永明中学校)  
 記録者 中込 郁恵先生 (松本市立島立小学校)  
 世話係 久保 貴史先生 (信州大学教育学部附属松本中学校)

### 【第1分科会】

番号	地区	学校名 参加者名	テーマ
1	下伊那	根羽中学校 久保知史先生	豊かに生き生きと表現して、よりよく生きようとする意識を高める道德
2	塩筑	筑北中学校 大久保慧先生	自己の姿を見つめ、友と考えを伝え合う中で道德的自覚を深める指導はどうあるべきか
3	安曇野	三郷中学校 正谷晴邦先生	友と関わりながら自分の姿を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成～新たな価値観に気づき、自己を見返す力を高めるための道德授業はどうあったらよいか～
4	長野	附属長野中 米山 聡先生	道德的価値を自覚しながら、道德的な判断をする力を高めることができる生徒の育成
5	諏訪	富士見中 茅野正和先生	グループで話し合い活動を深めるための指導のあり方

### 【第2分科会】

番号	学校名 参加者名	研究テーマ *研究の要旨	討議内容	キーワード
1	飯田市立 竜峡中学校 成田浩和先生	「考え・議論する道德」のための学習形態と発問の工夫	道德教科化と改訂のポイント 考え・議論するための視点	①道德教科化 ②議論する視点や価値について
2	上田市立 第三中学校 古川智基先生	議論する道德	議論することで道德的な価値は養われるかどうか	
3	茅野市立 永明中学校 田中健雄先生	A 生に寄せた自作教材の作成	本教材が道德的な価値を考えるために有効な自作教材であったかどうか	
4	松本市立 梓川中学校 丸田青冴先生	他者(先人)の考え方(生き方)を学ぶことを通してよりよい生き方をめざす自己を想像し、内面の価値を高め、より創造的な生き方を求めていく生徒の育成	継続的な単元展開のあり方	継続的な 単元展開 のあり方
5	信州大学 教育学部附属 松本中学校 久保貴史先生	学校行事、総合的な学習との関連を図った、リアリティのある道德の創造	・体験活動と道德のかかわらせ方には、どのような授業展開や方法があるのか ・今回の授業の評価の仕方について	①学校生活と 関連させた道 徳 ②評価の仕方

## IV 研究問題と協議内容

### 【第1分科会記録】

#### 1 考えが深まる話し合いのあり方

##### (1) 発表されたこと

- ・グループ活動の際、生徒同士の意見発表で終わってしまうという課題を、生徒自身の問い返して深めたいと考え、「つぶやきカード」を使用した。「つぶやきカード」には、1枚につき、1つの問いかけが記され、話が終わってしまったグループは、カードを開き、その内容について話し合った実践。(富士見中)
- ・班で話し合った内容を「一言でまとめなさい」と指示を出すと、班によって違いが出てくることで、その内容を説明したり、問い返したりする必要感が生まれてくる。(富士見中)
- ・数直線を使って、学級全員の考えを視覚化することで、友の話を聞きたいという必要感を持たせた実践。(三郷中)

##### (2) 話し合われたこと

- ・話し合いの課題について、時間の区切り方が難しい、話題が広がりすぎてねらいにたどり着かない、グループごとに進度が違う、発言力のある生徒が押し切ってしまう、発表で終わってしまう、などが出された。
- ・富士見中学校の指導方法（一言でまとめる班活動）を体験し、自分の言葉の意味をより深く考える良さや、言葉遊びになってしまうこともあり話し合いが表面的な部分で終わってしまう難しさが話題に上がった。

##### (3) 指導者からのご指導

- ・生徒が話し合いを深めるには、『必要感を持たせる発問』『安心感（クラスの雰囲気）』が必要。しかし、今回の話し合いの中での『技能』面の必要も感じる。生徒自身が問い返しをする「つぶやきカード」。友との考えの違いに気づき、「話したい」という必要感を生むために視覚化をしていく「ホワイトボード」「数直線」「マグネット」「付箋」「ランキング」など。これらの方法は資料の特性に合わせて何を使うかを考えていく必要がある。

#### 2 道徳的価値の自覚を深めるための指導や支援のあり方

##### (1) 発表されたこと

- ・モラルジレンマの教材を利用して、話し合わせることで生徒の本音を引きだそうと考えたが、話し合いをどのようにまとめ、価値にどう気づかせていくのか課題が残った例。(根羽中)
- ・アンケート結果を使用したり、資料の時代背景を説明したりした導入場面の工夫。さらに資料分析を行い、班で意見を交わし合う場面を設定したが、話し合いの必要感を持たせる必要性が示された実践。(筑北中)
- ・既成の資料に登場する人物を利用して、その人物の葛藤が色濃く表れた自作資料を作成し、2単位時間の中で、一つの道徳的価値の自覚をより強く深めていく授業の実践。(付属長野中)

##### (2) 話し合われたこと

- ・モラルジレンマの資料は、友との意見の違いが分かりやすく、話し合う必要感が生じやすいという良さがある。ねらいを明確にし、心情面を考えていき、どちらの考えでもねらいとする価値の自覚を深められると良い。
- ・自作資料の作成は難しい。しかし、二つの資料に登場する人物が同じだったため、生徒の中にその人物の成長を期待する気持ちが生まれていた。
- ・実際に授業で利用した資料を使い、その授業と同じ中心発問で話し合いを行った。限られた時間の中で考える難しさや話し合ったことをまとめていくことの難しさを感じた。グループ活動を1時間の中で2回設定することは難しいと実感した。
- ・資料「一冊のノート」を利用して、必要感のある話し合いにするために、中心的な発問と終末の発問を一体的に考える演習。

##### (3) 指導者からのご指導

- ・ご自分が感じた事を持ち帰ってほしい。

- ・中心発問の前に班での話し合いを入れるか、中心発問について班で話し合うか。子どもの考えに違いが生じ、「友と話したい」という必要感が生まれる場面で話し合い活動を使ってほしい。
- ・道徳の授業にはタブーと言われることがいくつかある。それぞれのタブーが意味することと、「道徳の目標」にそって指導方法の工夫を考えられると良い。そうすれば、タブーに固執する必要はない。また、話し合いが盛り上がったから良い授業ではなく、「一面的な生徒が多面的になったか」や「自分自身との関わりが深められたか」という視点で授業を振り返ってほしい。
- ・道徳の授業の中で、価値の理解とともに、2つの理解（人間理解、他者理解）も深める。特に、（大事と思っているでも実践することは難しいという）人間理解の面を大事にすると、自分の弱さを正直に出してもいいんだという安心感の中で授業ができる。教師も本音で話ができるが良い。

文責者 松本市立女鳥羽中学校 小日向里美

## 【第2分科会記録】

### 1 「考え、議論する道徳」のための学習形態と発問の工夫

- ・個で考える、グループで考えを交流する、友だちと自由に考えを交流する、交流した考えをもとに自分の考えをまとめ直す、全体で共有する等、学習形態の工夫により、道徳的価値の自覚を深めていく。
- ・グループで考えを交流する場面では、考えだけではなく、その理由を語ることで話し合いが深まっていくのではないか。
- ・学習カードに、自分の考えを数値バロメーターで記入することで、「どちらかといえば」という考えが出てきた。更に「自分の親の危篤の連絡だったらさきまりを守れるかどうか」等、生徒の心の揺れを喚起する問い返しをしたい。
- ・「ルールは守らなければいけない」ではなく、時にはそういかないこともある（人間理解）自分を自覚し、自分はどうしていくのか考えさせたい。

#### （ご指導）

考えの交流と振り返りを大切に、様々な考え方、感じ方に出会って自分自身の考え方、感じ方をより明確にする「議論する」道徳につなげたい。また、「価値理解」「人間理解」「他者理解」の3つの道徳的価値の理解により、道徳的価値の自覚を深め、自己理解を深めていきたい。

### 2 自作教材のあり方

- ・教師自身の中学校時代の出来事を題材とした自作資料。子どもにとって身近で、登場人物に寄り添って考えやすい。
- ・意見の交流によって自分とは異なった考えに触れ、自分の考えを更新する生徒もみられた。

#### （ご指導）

教師の自己開示の姿が参考になった。授業の中では「どうしてそう思ったの」「そういう風に考えたんだね」等、問い返すことで、本音に迫ったり、道徳的価値の自覚を深めていったりすることにつなげたい。

### 3 継続的な単元展開のあり方

- ・校内で教科横断的なカリキュラム編成を考え、本単元は特別活動との連携を行った。クラス合唱の話し合いという特別活動との連携は、子どもにとって身近で、様々な考えが語られた。
- ・実証授業から、1時間ではなく、複数時間扱いをすることにより、道徳的な価値の自覚をより深めることにつながった生徒の姿がみられた。全ての内容項目を扱えるよう、年間指導計画と合わせ、複数時間のより効果的なとり方を考えながら、今後も検証・研究を続けたい。
- ・常に教科横断的に行えばよいということではなく、取り入れ方の工夫が必要か。

#### （ご指導）

道徳教育の全体計画、別葉により道徳の時間の授業とともに、各教科・領域における道徳教育も行う。一部改訂学習指導要領の内容項目2.2を除いた、3.5時間中の1.3時間は、各学校の道徳教育の重点目標に沿って、子どもたちにつけたい力について行うことが可能。

### 4 体験活動と道徳のかかわらせ方には、どのような授業展開や方法があるのか

- ・志賀高原での体験活動を、道徳とかかわらせた。「自然って大切」という体験の感想で終わらせず、道徳の

時間で、どうして大切なのかまで深く考えられるようにした。

(ご指導)

学校行事、総合的な学習の時間とのかかわりで、共通の体験から深い学びにつながっている。「大切なことは何か」だけでなく「なぜ大切か」というところが大事。「人間理解」に迫る考えが、子どもたちの中に生まれている。

5 資料・評価についてのご指導

資料：同じ資料でもねらいによって切り口は違う。子どもに何を考えさせるか（指導観）を確かにもつこと。価値観、児童生徒観、教材観をもとにつけたい力を明確にする。

評価：「一面的な見方から、多面的・多角的な見方（他者・価値理解）へと発展しているか」「道徳的な価値理解を自分自身とのかかわりの中（人間・価値理解）で深めているか」等の観点で、長期的な視点で子どもの道徳的価値の自覚の深まりを捉える。

文責者 松本市立島立小学校 中込郁恵

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	・適切
○研究の主な内容と研究の成果について	・適切
○研究の方法や経過について	・1枚レポート参加も可能にするのはどうか。(参会者より) ・適切
○研究会当日の運営について	・適切
○研究集録等のWebページ掲載について	・ホームページをあまり見ない。(参会者より)
○本年度運営全般について	・少ない人数でしたが、その分、多くを語り合うことができました。(第2分科会) ・主事の先生に簡単なワークショップをしていただきました。(第1分科会)

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	・継続 サブテーマで焦点化も良いと思う
○来年度の研究の趣旨	・継続
○来年度の研究の方法	・教科化にあたって、評価のありかた等も盛り込めたら良いと思う
○その他、改善したい点	・道徳分科会としては、特になし。レポート枚数や提出日等については検討が必要か。

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地から、たくさんの先生方にお集まりいただき、日々の授業実践をもとに、生徒の学ぶ様子を通して、指導のあり方を熱心に討議していただき、本年も多大な成果を収めることができました。

お忙しい毎日にもかかわらず、終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました。指導者の宮下健治先生、丸山美恵先生、レポートをくまなくお読みいただき、綿密な司会計画により協議を深めていただきました司会の高野昌生先生、田中健雄先生、また、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の小日向里美先生、中込郁恵先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方が参加され、道徳教育のあるべき方向を求めて、より有意義な研究会にさせていただくことを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 久保 貴史  
副委員長 米山 聡